

病防第30号
令和7年（2025年）8月20日

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

令和7年度（2025年度）病虫害発生予察注意報第2号の記載内容の一部
訂正について（通知）

このことについて、令和7年度（2025年度）病虫害発生予察注意報第2号（早植え、
普通期水稻の斑点米カメムシ類）の記載内容を一部訂正しますのでお知らせします。

記

1 訂正箇所

・本文の4 注意報発表の根拠（1）

合志市に設置した予察灯における6月～8月第3半旬の斑点米カメムシ類（ミナミア
オカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ）の誘殺数
（誤）163頭（平年44頭）→（正）216頭（平年54頭）

（別添 訂正後の技術情報を御参照ください）

熊本県病虫害防除所 （熊本県農業研究センター 生産環境研究所内） 担当：守田 TEL：096-248-6490

各関係機関長 様

熊本県病虫害防除所長

病虫害発生予察注意報について（送付）

このことについて、令和7年度（2025年度）病虫害発生予察注意報第2号を発表しましたので、送付します。

注 意 報

令和7年度（2025年度）病虫害発生予察注意報第2号

農作物名 早植え、普通期水稻
病虫害名 斑点米カメムシ類

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 8月中旬以降
- 3 発生程度 多
- 4 注意報発表の根拠

（1）合志市に設置した予察灯における6月～8月第3半旬の斑点米カメムシ類（ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ）の誘殺数は、216頭（平年54頭）と平年より多い状況が続いており、8月第1半旬から急増した（図1）。

特に斑点米産出能力の高いミナミアオカメムシが193頭（平年45頭）と最も多く、次いで、シラホシカメムシが16頭（平年4頭）、クモヘリカメムシが7頭（平年5頭）であった（図2）。

（2）早植え栽培は8月上中旬、普通期栽培は8月下旬から出穂期となるため、斑点米カメムシ類による被害が特に多いと予想される。

（3）8月14日福岡管区気象台発表の九州北部1ヶ月予報では、向こう1ヶ月の気温は平年より高い予想であり、本種の発生に好適な条件となる。



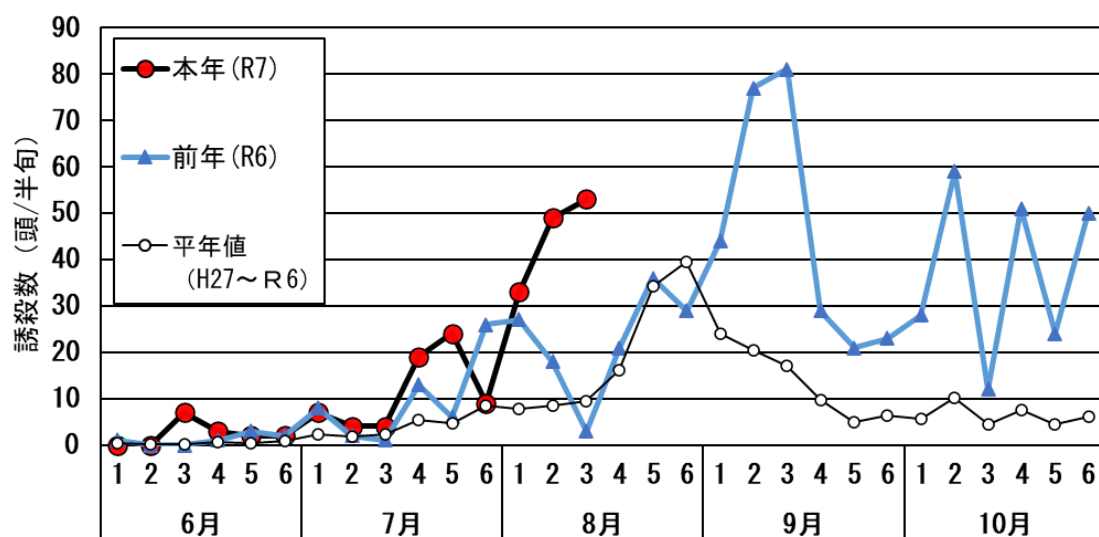


図1 斑点米カメムシ類（ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ）誘殺消長（合志市）

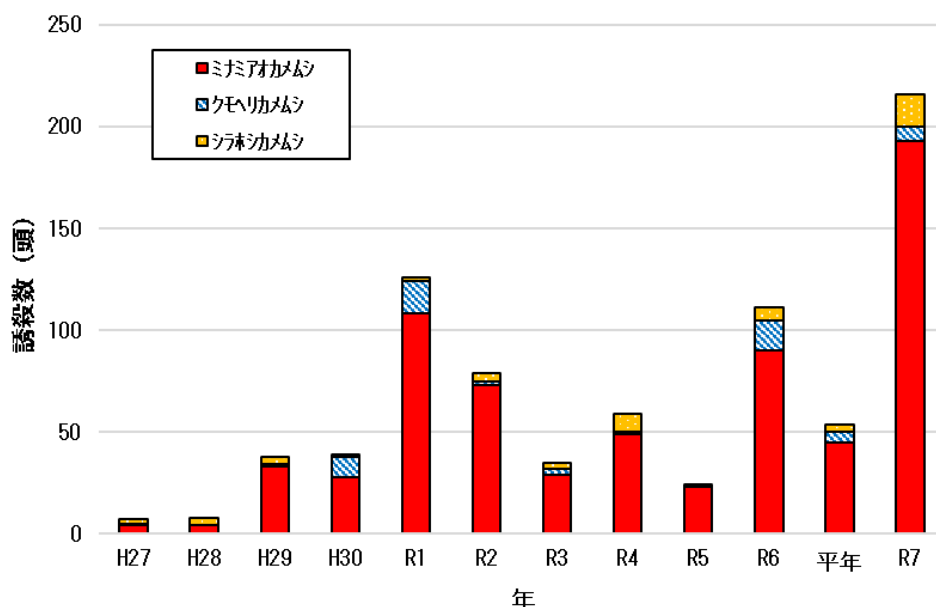


図2 斑点米カメムシ類（ミナミアオカメムシ、クモヘリカメムシ、シラホシカメムシ）の6月～8月第3半旬の累計誘殺数（合志市）

※平年は、過去10年間（H27～R 6）の平均値。

5 防除対策

- (1) 畦畔など周辺雑草の除草は本田への飛来を助長するため、水稻出穂後には行わない。
- (2) 防除適期は、穂揃い期とその7～10日後（乳熟期）の2回である。2回の防除後に生存虫や新たな侵入が認められる場合は、穂揃い期の14～20日後（糊熟期）に追加防除を行う。地域で一斉防除を行うと効果が高い。



本注意報は、病害虫防除所ホームページに掲載しています。

「<https://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/75/125504.html>

- (3) カメムシの種類によって薬剤の効果が異なるため、主に発生している種類を確認して、効果の高い薬剤を選定する。ピレスロイド系（IRACコード：3A）はミナミアオカメムシに対して効果が劣る。またネオニコチノイド系（IRACコード：4A）はクモヘリカメムシに対して効果が劣る。
- (4) 薬剤の使用にあたっては、使用回数、濃度、使用量、使用時期を遵守するとともに、周辺作物や有用昆虫・魚介類等の環境に影響がないよう農薬飛散（ドリフト）防止に努める。付近にミツバチの巣箱が設置してあるほ場では、事前にその管理者に連絡するなど、農薬による危害防止に努める。

熊本県病虫害防除所
(熊本県農業研究センター生産環境研究所内)
担当：守田
TEL 096-248-6490 FAX 096-248-6493

